



おやまのうぎょうかんきょうほぜんくみあい

わじまし

尾山農業環境保全組合 (石川県輪島市)

- 本組織は、平成26年より本交付金による取り組みを実施し、従前の農地・水環境保全事業から継続して活動している。
- 農地の維持管理活動に加え、本組織が主体となり、地元小中学校と連携した生き物(水質)調査・景観保全清掃活動を長年継続して実施している。この活動によって子どもたちの地元に対する興味関心や環境保全に関する意識醸成につながっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積48.88ha (田48.88ha)
- ・資源量 水路3.4km 農道2.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、自治会
- ・交付金 約2.1百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 過疎高齢化が進み、農業人口の減少に伴う遊休農地の増加によって、生物の減少を危惧。
- 農地集積が進み、地域住民・農業者と、次世代を担う子どもたちとの交流機会が減少傾向にある。それに伴い、農村環境に対する関心の希薄化が懸念される。



管理されていない遊休農地

取組内容



- 地元小学校児童を対象に生き物・水質調査を実施する一方、中学校生徒を対象に農地周りの景観保全清掃活動に取り組んでいる。
- 組合創設時に学校側へ連携を打診し、活動開始以降約15年以上にわたり継続している活動である。



生徒による農地周りの清掃活動

取組の効果

- 生き物・水質調査を実施することにより、児童が学校周辺農地の環境・生態系について関心を持つきっかけとなっている。
- 景観保全清掃活動を通じて農村環境の維持管理に対する理解や意識向上につながっている。



児童による生き物調査



みどり こういききょうてい はくさんし
美土里ネットはやしなか広域協定 (石川県白山市)

- 本地域は、石川県白山市の旧松任市の南部に位置し、手取川扇状地の豊かな土壌を活かした稲作中心の農村地域である。
- 農業者の高齢化や離農が進む中、農業用施設や農村環境の保全を図るため、平成26年度に7集落で構成する「美土里ネットはやしなか広域協定」を設立。
- 集落が一体となって活動に取り組むことにより、施設が適正に保管理されるとともに地域コミュニティの強化につながった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積247.19ha
(田242.81ha、畑4.38ha)
- ・資源量 水路78.7km
農道28.3km
- ・主な構成員 自治会、子供会、
農業者団体等
- ・交付金 約16.2百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 本地域では大規模農家への農地集積率が高く、農業者の離農が進んでいる。
- 非農家世帯の増加に伴い、地域住民の農業や農村環境に対する意識の希薄化が不安視されていた。



勉強会・情報共有

取組内容



- 毎月1回、運営委員会委員や各集落の事務担当者等23人が集まり、勉強会や情報共有を行っている。



- 農村文化の伝承のため、虫送り太鼓やかかし作りなどの行事に取り組んでいる。
- 行事には大人も子供も参加し、世代を超えた交流を図っている。



虫送り太鼓の練習

取組の効果

- 取組状況や目標などが各集落に共有され、農業や農村環境の重要性が周知された。
- 失われかけていた農村文化が復活・継承されるだけでなく、地域コミュニティの強化や地域おこしにもつながった。令和3年4月には、地元のこども園や小学校の入園式・入学式を12体のかかしが彩った。



かかしの製作



うるちくかつどうそしき
宇留地地区活動組織

あなみずまち
(石川県穴水町)

- 本地域は、町の西部中央に位置する中山間地域であり、農業に由来する伝統文化を継承している地域でもある。しかしながら、農業者の高齢化や後継者不足により農業用施設の維持管理に苦慮していた。
- 平成23年に能登の里山里海が世界農業遺産に認定されたことを契機に、伝統文化継承に注力。平成26年より本制度を活用し、地域ぐるみの維持管理体制を構築し、伝統文化継承の場となる水田の日常的な管理を実施。
- 地域ぐるみの体制構築により、維持管理が充実するとともに、伝統文化継承の活動を通じて、コミュニティ機能の向上等、地域の活性化の一翼を担っている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 31.62ha
(田31.62ha)
- ・資源量 水路 12.7km
農道 10.2km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、生産組合等
- ・交付金 約2.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、江戸時代から続くとされる「だんご祭り」が現在も行われるなど農業に由来する伝統文化を継承している。
- 農業者の高齢化や後継者不足により、水路の草刈りなどの農業用施設の維持管理に苦慮していた。



藩政期から続く伝統行事「だんご祭り」は、一年の無病息災や豊作を願い、うるち米と小豆を練った昔ながらの団子が住民に振舞われる。

取組内容

- 平成26年に活動組織を設立し、非農業者も含め地域ぐるみで水路等の草刈を実施。
- 本地域では、江戸時代から、松明を持って夜の田畑を練り歩き、防虫と豊作を祈願する伝統行事「虫送り祭り」が行われており、活動組織は伝統行事の場となる畦道等の日常の管理を行うとともに、虫送りの運営にもボランティアで参加している。



藩政期から続く「虫送り祭り」

取組の効果

- 地域ぐるみで活動することにより、水路等の草刈の体制が強化され、一人当たりの作業負担が軽減するとともに、きめ細やかな管理が可能となった。また、地域全体で維持管理しようという意識が向上した。
(活動参加者 以前:約30人⇒現在:約50人)
- 伝統文化の継承を通じて、コミュニティ機能が向上するとともに、他地域から関心も集め、地域の活性化の一翼を担っている。
(平成25年より町内小学生と保護者の20名程が虫送り祭りに体験参加)



水路等の草刈り

のとまちこういききょうていうんえいいんかい やまぐちみどりのさとほぞんかい のとちよう
能登町広域協定運営委員会 山口みどりの里保存会（石川県能登町）

- 本組織は、地区内の農道・水路等の一体的な保全管理の維持充実を図るべく、平成19年度から本交付金による取組を実施している。
- 集落のブランド米「能登木郎米」を目標に掲げ、子どもからお年寄りまで体の動く人たち全員が一緒になって農道・水路等の維持管理を行っている。
- 本活動により、ふるさと納税への出品、山口若者会の発足など、地域と大学生の交流が生まれ、共同活動への参加意欲の向上を図ることができた。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積18.77ha（田18.77ha）
- ・資源量 水路 6.8km
農道 6.1m
- ・主な構成員 農業者 非農業者
自治会
- ・交付金 約1.0百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農家の高齢化、後継者不足が進む一方、機械化も進み、山口地区においても子どもが田んぼに触れ合う機会が減少し、農作業の効率化とともに農耕文化も廃れていった。
- 本交付金による活動をきっかけに、地域ぐるみによる伝統的農法の保全を行うとともに「能登木郎米」の栽培が始まった。



地域住民による能登木郎米の協議

取組内容

- 地域で管理する「集落共同田」を始め、集落のブランド米づくりを目標とすることで、全員参加の多面的活動の活性化を図る。
- 放置竹林をチップ化し発酵させた竹堆肥、海洋深層水の葉面散布等の地域資源にこだわった米づくりや、稲架干し、あえのこと等農作業の効率化により廃れていた農耕文化の復活。

5 ジェンダー平等を
実現しよう

11 住み続けられる
まちづくりを

15 陸の豊かさも
守ろう



集落共同田での稲架干し作業

取組の効果

- 本交付金の活動を通じて、地域コミュニティが強化されるとともに、地域ブランド米を中心に、集落に住み続けられる基盤づくりにつながっている。
- 東京大学フィールドスタディ型政策協働プログラムに採択され、地区の現状、課題解決策を提言し地域の将来を担う20~40代の集まり「山口若者会」が発足した。(R1)
- 「能登の里山集落と関係人口づくり」をテーマに、大学生と山口若者会が連携して、「あえのこと」をオンライン配信する等、地域の活性化の取り組みが生まれた。(R2)



東大生と山口みどりの里保存会



構造改革の後押し等地域農業への貢献
非農業者の参画の推進による担い手農業者の負担軽減

平地農業地域



キーワード

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

地域資源の
保全管理

組織の広域化
・体制強化

おうちがたみどり

邑知潟水土里ネットワーク はくいし ほうだつしみずちょう なかのとまち
(石川県羽咋市、羽咋郡宝達志水町、鹿島郡中能登町)

- 本組織は、邑知潟土地改良区の合併を契機に平成19年より本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策による取組を開始。
- 59集落・NPO等12団体と協定を締結して、農地・農業施設の保全や農村環境保全活動に取り組んでいる。また農福連携として3福祉団体が活動に参画している。
- 広域活動組織として会計を一本化したことにより、複数の集落で管理している水路やため池等の施設を共同作業で行えるようになった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積2,135ha (田2,135ha)
- ・資源量 水路656km、農道303km、ため池93箇所
- ・主な構成員 町内会、土地改良区 JA、NPO法人、福祉法人 漁業組合、環境団体 等
- ・交付金 約108百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、江掘り、草刈等は農家が行っていたが、末端までの管理が充分ではなかった。
- 耕作放棄地になりそうな田が各地で見られた。



管理不足の水路・耕作放棄地

取組内容



- 非農家を含めた町内総出での江掘り、草刈を実施。



地元町会による草刈活動

- 耕作放棄地対策として、社会福祉法人と連携して、休耕田の草刈りや野菜・景観植物等の植栽活動を実施。



福祉法人による植栽活動

取組の効果

- 過去5年間(H30年～令和4年)で延べ48,070名(内、非農家33,845名 70%)が参加している。
- 広域的な活動が周知されていくと共に加入集落が増え、協定農用地が活動開始時の1,819haから2,135haに増加しており、活動の輪が広がっている。



加入集落



福祉法人



ヤギの放牧等による農地の荒廃防止

山間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

農村環境の
保全・向上

組織の広域化
・体制強化

みはまちょうこういききょうてい
美浜町広域協定

のぐち かい みはまちょう
野口だいどこ会 (福井県美浜町)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 26.6ha (田 26.6ha)
- ・資源量 水路 8.5km 農道 7.1km
- ・主な構成員 自治会、子供会 老人会、婦人会等
- ・交付金 約 2.4百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

- 農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から本交付金による取り組みを開始した。平成27年度からは町1組織の広域活動組織「美浜町広域協定」に参加し、活動を継続している。
- 本地域では、平成15年頃から獣害対策を行ってきたが、高齢化のため、耕作が放棄されたことで農地の荒廃が進み、除草対策が課題であった。
- 美しい里山を守るため、平成25年度から農用地へのヤギの放牧に取組み、除草作業の負担軽減、地域内外の人の交流が図られている。
- また、遊休農用地の保全対策として、女性によるペチュニア等の栽培にも取り組んでいる。

活動開始前の状況や課題

- 本地域における山際の農用地のうち、約5haが中山間地域等直接支払の協定農用地であり、獣害被害の解消が課題であった。
- 平成15年に町の事業でイノシシ等の獣害被害対策として、電気柵や恒久柵を設置し維持管理を行ってきたが、耕作者の高齢化により、獣害柵の維持及び耕作が難しくなり耕作放棄地が増加していた。
- 耕作放棄地対策



山際の農用地での獣害柵の維持管理と除草作業

取組内容



- ヤギの放牧による農用地除草と農用地の荒廃防止



ヤギの放牧

(ヤギの放牧数)
H25 4頭
↓
R3 10頭

農用地の除草作業
軽減面積 約1ha



- 遊休農用地を活用した女性による花きの栽培



ペチュニア等の植栽

(取組面積)
約4a

※景観形成と
祭礼行事等で
花を利用

取組の効果

- ヤギの放牧により約1haの農用地の荒廃農地化が防止できている。
春先から続けて放牧し、草丈を一定に維持することで、除草が不要となり、除草作業の負担が軽減された。
- ヤギは子供や住民の癒しと和みに！
ヤギはおとなしくて人懐っこく、ヤギと遊ぶため地区外から人が訪れ、集落が賑やかになった。



住民の癒し的な存在のヤギ





集落ぐるみによる山際対策(獣害対策の強化)

山間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

農村環境の
保全・向上

組織の広域化
・体制強化

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 20.0ha (田 20.0ha)
- ・資源量 水路 0.7km 農道 0.3km
ため池 1箇所
- ・主な構成員 自治会、子供会
婦人会、老人会等
- ・交付金 約1.8百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

みはまちょうこういききょうてい
美浜町広域協定

さがきくによしかんきょうほぜん
佐柿国吉環境保全ネットワーク (福井県美浜町)

みはまちょう

- 農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から本交付金による取組みを開始した。平成27年度からは町1組織の広域活動組織「美浜町広域協定」に参加し、活動を継続している。
- 本地域では、営農の大部分を他地区の認定農業者に任せており(農地集積率約91%)、農業離れが進む中、地域ぐるみで獣害防止対策や水路・農道・ため池の保全管理を行っている。
- 近年では、山林の荒廃化等やツルや笹竹等により獣害柵の機能が阻害されていたことから山際対策を実施したことで機能維持と被害発生抑制に繋がっている。

活動開始前の状況や課題

- 獣害対策は耕作者が各自で実施していたが、平成10年頃から被害が拡大し、町の事業で獣害柵(電気柵)を設置した。平成23年度には金網の獣害柵(恒久柵)を設置した。
- しかしながら、ツルの巻付き、竹や笹の繁茂による電線への干渉や補修等の維持管理にかかる労力と経費が区民の大きな負担となっていた。



山際の草刈りや獣害柵の維持管理作業

取組内容



- 山際対策の強化
班編成をした定年退職者が点検・竹や笹等の伐採・補修を実施し、多くの人員が必要な作業は地域ぐるみで実施している。



獣害柵周りの樹木等の伐採

獣害柵(恒久柵)は集落を囲む約3.3km設置



獣害柵の点検と破損箇所の補修

取組の効果

- 獣害柵の効果アップ
山際の竹や笹等の伐採を行うことで恒久柵の緩衝帯としての機能が維持できている。



山際対策の適切な実施により、ここ数年、地域内で大きな被害は発生していない。



緩衝帯としての機能をもつ恒久柵の維持作業

グリーンネットさばえ (福井県鯖江市)

さばえし

- 農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から水・土・里ネット中野が取り組みを開始し、近隣の活動組織や未取組集落が活動に加わり、広域活動組織として本組織が設立した。現在では、32集落、約810haの農用地で取り組みを継続している。
- 本地域の農業用施設は、その多くで老朽化が進み、長寿命化対策を必要としていたため、工事コスト削減と技術力の習得を目的とした地域住民が参加する直営施工班の設置等による活動体制を整備している。
- また、将来的な保全活動の労力補完を見据え、草刈り応援隊の設置し、集落の垣根を越えた体制の整備にも取り組んでいる。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 810.0ha
(田 799.0ha・畑 11.0ha)
- ・資源量 水路183.7km
農道75.6km ため池2箇所
- ・主な構成員 自治会、子供会
土地改良区等
- ・交付金 約73.5百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 地域内の水路、農道等は、施設整備後30年以上経過し、老朽化が進み、多くの施設が補修や更新を必要としていたため、地域の負担を軽減しながら長寿命化対策を実施することが望まれていた。

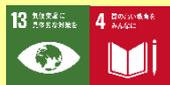


- 本制度の活用により、数多くの工事を実施する方法が必要となった。



素掘りの水路

取組内容



- 直営施工班の設置による長寿命化対策の実施

- 地域内の土木作業・測量・重機オペレータ経験者による「直営施工班」を設置し、測量・工事設計・施工を実施している。



現地測量による工事設計書の作成

- 地域内で人材を募り、大型草刈機を使用した「草刈り応援隊」を設置し、高い法面や農道等の草刈りを5～10月の間、月3回実施している。

取組の効果

- 直営施工により工事コストの低減と地域内の人材発掘や技術力の向上に大きな成果が得られた。
施工施設数 6施設(H21以降)
工事コストの低減 約4割削減



直営施工による
水路の更新

- 草刈り応援隊の設置により、広域活動組織とした作業体制の整備、高い法面や共用農道等の草刈作業の負担が軽減できた。



草刈り応援隊の大型草刈機
を使用した草刈作業



さかぐちちくのうちみずきょうぎかい

えちぜんし

坂口地区農地水協議会（福井県越前市）

- 農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から本交付金による取組みを開始した。平成29年度からは4組織の合併により設立した広域活動組織「坂口地区農地水協議会」として活動を継続している。
- 本地域はアベサンショウウオをはじめとする希少種が多く生息し、コウノトリが飛来する緑豊かな里山地域である。
- 地域内の耕作放棄地になりうる田んぼを活用したビオトープの造成や小学校と連携した生き物調査のほか、コウノトリの餌場づくりには地域ぐるみで取り組んでいる。こうした生き物の保全と農業が共生した地域づくりの取組みにより、世代間交流や生態系保全への関心が高まり、活動の定着による地域の活性化が図られている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 97.4ha
(田 92.8ha・畑 4.6ha)
- ・資源量 水路33.2km 農道21.8km
ため池12箇所
- ・主な構成員 自治会、子供会
婦人会、土地改良区等
- ・交付金 約9百万円(R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 高齢化等による耕作放棄地の増加が懸念されたため、その活用や保全対策が課題となっていた。
- 本地域は、コウノトリが飛来する地域でもあり生き物の保全と農業との共生による農用地の保全を進める必要性があった。

飛来するコウノトリ



退避溝を設けた
コウノトリを呼び戻す田んぼ

取組内容



- 耕作放棄地を活用したビオトープづくりと、コウノトリの餌場づくり等による保護の取組みを契機に、学習の場とし小学校と連携した生き物調査の実施

・造成したビオトープ数 11箇所 (R4現在)



地域の方々がか
コウノトリの餌場や動植物の保全等の様々なビオトープを直営作業で造成



ビオトープでは
小学校と連携した生き物調査やドジョウの養殖等を実施

取組の効果

- ビオトープは生き物の保全と農業が共生した地域づくりや環境学習会の場として活用されている。



ドジョウの養殖
を行っている
ビオトープ

- ビオトープで育ったドジョウを使ったドジョウピザを作ったり、年に2回ドジョウレストランを開催。生態系保全と食の関連について学ぶ場として定着しており地域・小学校からも喜ばれている。



捕れたドジョウ



ドジョウ
レストラン



ドジョウピザ

かすえ さと まる かい ふくいし 主計の郷を守る会 (福井県福井市)

- 農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度に土地改良事業区域を対象とした広域活動組織を設立し、取組みを開始した。
- 本地域は、浅水川からの取水と日野川用水の補給水により農業用水を供給する穀倉地帯である。地域内には、国道・JR北陸本線が横断しており、混住化が進行する中、集落の共同活動と土地改良区の役割分担による保全管理等を行う体制を整備している。
- 平成29年の台風21号では、農業用水を供給する幹線用水路や地域内のほ場への倒木等の被害を受けたことから、早期の用水供給と農用地の復旧を実施した。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 216.9ha
(田 216.7ha、畑 0.2ha)
- ・資源量 水路 53km
農道 8km
- ・主な構成員 自治会、農家組合
土地改良区等
- ・交付金 約19.9百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 本地域の農業用水は浅水川から取水し、幹線用水路を経て、5つの揚水機場で約220haに供給しており、幹線用水路は営農にとって最も重要な施設である。
- 地域内を流れる河川の上流側に位置する低い農用地では、大雨時には浸水被害が発生する状況にある。



取組内容

- 台風により破損した水路および農用地の復旧(異常気象時の対応)

平成29年に発生した台風21号により破損した幹線用水路と農用地を復旧した。



農用地内に倒木が発生

取組の効果

- 広域活動組織のスケールメリットにより復旧費用が捻出できたことで

- (1) 幹線用水路最上流部の破損を早期復旧できたことで、約220haに計画通り用水供給を開始できた。
- (2) 倒木により約1haの農用地で被害を受けたが、計画通り営農を開始できた。
- (3) 被害状況の確認は、活動組織と土地改良区で実施。
- (4) 復旧作業は、土砂撤去や倒木の処分等は、委託により実施。

(参考) 復旧に要した日数

幹線用水路	
作業日数	5日・延べ128時間
農用地	
作業日数	2日・延べ32時間



小学校と連携した農業体験の実施

中間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

農村環境の
保全・向上

農村の地域コミュニ
ティの維持・強化へ
の貢献

組織の広域化
・体制強化

あじまのちくのうちみずきょうぎかい えちぜんし
味真野地区農地水協議会 (福井県越前市)

- 本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から取組みを開始した。令和元年度に15集落が参加する学校区単位の広域活動組織「味真野地区農地水協議会」を設立し、活動を継続している。
- 本地域は、鞍谷川および日野川用水からの取水により農業用水を供給する中山間地域であり、元号「令和」の出典となった万葉集にも味真野を舞台とした唄が数多く収められている。「万葉の里」としての賑わいを次世代に良好な状態で継承できるよう、地域資源や農村環境を地域ぐるみで保全している。
- その中でも、地域の子供会やPTAが働きかけ、小学校と連携した伝統的農法による農業体験は、教育および次世代間交流の場として定着している。

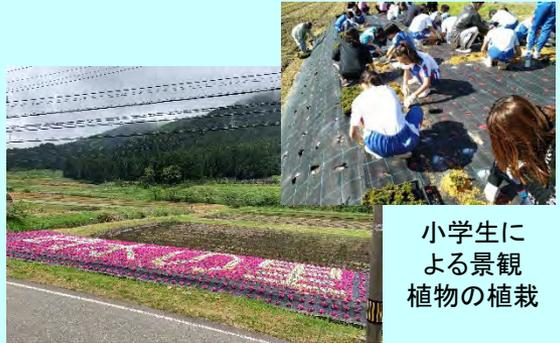
【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 366.7ha (田 362.3ha・畑 4.4ha)
- ・資源量 水路100.7km 農道59.2km ため池8箇所
- ・主な構成員 自治会、子供会 土地改良区等
- ・交付金 約33.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 活動組織が広域化される前は、特定の活動組織による取組みであったが、集落の垣根を越えた効果的な取組展開を行う必要性を感じていた。
- 令和元年度に活動組織を広域化するにあたり、広域活動組織と小学校が連携して取組むことにした。



小学生による景観植物の植栽

景観植物の植栽による地域の風景

取組内容

4 認定農用地 11 認定農用地 15 認定農用地
 ○ 小学校と連携した農業体験と景観形成

小学校5年生を対象とした伝統的農法による田植え・案山子づくり・稲刈り等の活動を実施



田植え



農業に関する勉強会



案山子づくり



稲刈りと稲架掛け

取組の効果

- 次世代を担う小学生の農業への関心が高まり、教育の場として定着している。
- 自治振興会や祖父母を含む保護者会とも連携して活動しており、世代間交流の場として地域コミュニティの強化が図られている。
- 越前市子ども会育成連絡協議会の広報誌で活動に参加した小学生の想いが紹介され、広報活動に寄与している。



小学生の想いが紹介された広報誌



景観形成から生まれた“ひまわり米”とその効果

中間農業地域



キーワード

地域資源の
保全管理

農村環境の
保全・向上

農村の地域・コミュニ
ティの維持・強化へ
の貢献

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

組織の広域化
・体制強化

わかさ のうちかんきょうほぜんこういききょうてい みやがわ おばまし
若狭おばま農地環境保全広域協定 宮川グリーンネットワーク (福井県小浜市)

- 本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策の創設を契機に、平成19年度から取組みを開始した。平成28年度からは市1組織の広域活動組織「若狭おばま農地環境保全広域協定」に参加し、活動を継続している。
- 本地域では、平成12年度に宮川地区長期計画を策定している。その実現に向けた取組みの一環として、本交付金では獣害対策や水路・農道等の土地改良区と連携した維持管理と豊かな自然を活かした農村環境の保全活動を実施している。
- また、施設管理者と営農組織と三位一体の体制を構築し、土地改良区と連携した計画的な施設整備、営農組織と連携した地域ブランド化等で大きな成果を上げている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 194.4ha (田 193.9ha・畑 0.5ha)
- ・資源量 水路61.5km 農道38.1km ため池8箇所
- ・主な構成員 自治会、青年会 (株)若狭の恵、土地改良区等
- ・交付金 約19.7百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農業者の高齢化により、水路等の維持管理が生産組織の負担となって、営農に支障をきたしていたことから、地域共同による維持管理体制の整備と、生産組織の体制強化が必要であった。
- ↓
- 平成27年度に、活動組織の一般社団法人化、4つの生産組織が合併し株式会社化を設立し地域運営体制を構築



地区の全景



ラジコンヘリによる農薬散布



大型コンバインによる稲刈り

取組内容



- 景観形成活動(ひまわり)を、営農組織が緑肥とし米づくりに活用した。



景観形成の活動として9haにヒマワリを植栽



ひまわりを緑肥として営農に使用



地域ブランド“ひまわり米”を生産

取組の効果

- 景観形成活動で植栽したひまわりは営農組織が緑肥とし使用し、地域ブランド“ひまわり米”が誕生。年間収益は約50万円の増加となった。また、6次産業化の取組として甘酒やジュースの生産にも力を注いでいる。
- ひまわり畑には年間約5万人の観光客が来訪し、地域の農産物を食材に活用した”農家レストラン”も開店した。



“ひまわり米”PRチラシ



ひまわり畑への来場者



えちぜんちょうのうちみずきょうぎかい
越前町農地水協議会

くまだにみどりほぜんかい
熊谷美土里保全会 (福井県越前町)

えちぜんちょう

- 平成19年度に創設された本交付金の前身である農地・水・環境保全向上対策において、集落単位で活動組織を設立し取組を開始。令和4年度から、町1組織の広域活動組織「越前町農地水協議会」に参加し取組を継続している。
- 本地域では、平成27年度～29年度に福井ふるさと茶屋整備事業により古民家の改修や活動拠点の整備に取組み、NPO法人フィールドミュージアム文化研究所による基本構想「古熊谷あたらしい村づくりを目指して」の提案があった。NPO法人の代表を務める大学教授との繋がりから、博物館学芸員課程の大学生が組織の活動に参加するきっかけが生まれ、地域住民との協働による地域コミュニティの形成や農業用施設と農村環境の保全に取組んでいる。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 8.51ha
(田 8.22ha・畑0.29ha)
- ・資源量 水路 3.4km 農道 2.8km
- ・主な構成員 自治会、老人会、婦人会
営農組織、大学、NPO法人
- ・交付金 約0.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 中山間地域の構成員31名(農業者9名・農業者以外23名)の小規模集落であり、高齢化や営農の担い手不足等により、農地を守りたいが活動参加者の確保が難しい。
- 話合いで認定農業者へ農地を集積し、一元的な耕作を行っているが、獣害被害が著しく、持続的な耕作に向けた対策が必要な状況にある。



山際の農用地での
獣害柵の維持管理作業

取組内容



- 大学生や地元高校生と地域住民との協働による保全活動の実施



水路の泥上げ



獣害対策(雑木の伐採)



- 農地や遊休農用地での農業体験の実施(学生参加)



伝統的農法による田植え



玉ねぎの植付け

取組の効果

- 伝統的農法(稲架掛け)で収穫した米を「田んぼの姫」として大学生が大学でPRと販売を行い、地域の婦人会が郷土料理を大学生に振舞うなど、大学生が農業・農村の必要性を現場で学びつつ、農産物の収穫と食の喜びを地域住民と分かち合う貴重な機会として継続されている。



田んぼの姫

郷土料理での交流会



伐採した雑木を使った炭づくり

- 炭焼きをしていた窯跡が多数残っていることから、地域の伝統文化である「炭づくり」を復活させ、次世代に伝承している。